

菊池川水系最古の井手が潤す町並み

〔町並みの分類／農村〕
菊池市築地地区(井手界限)

東正観寺にある記念碑

町並みについて

- ◆築地井手は、菊池川から取水し市街地のほぼ中央を流れており、菊池平野一帯の水田約140haを潤す農業用水です。約400年前の加藤清正による利水事業により築造されたといわれています。
- ◆現在は、隈府から西部の市街地では暗渠となっていますが、取水口から東正観寺までは風情のある水の流れをみることができます。



町並みの中心(核)となる伝統的建造物


築地井手

- ◆菊池川水系最古の井手といわれ、歴史的遺産として重要な施設です。井手の流路は、菊池氏が築いた十八外城の中心であった守山城(菊池城)の城郭を菊池氏滅亡後に、隈部親永が縮小し構築した壕を活用して造られたと考えられています。
- ◆界限には「菊池千本槍」や「菊池武重起請文」で名高い菊池氏13代武重の墓や、15代武光により菊池五山のひとつに定められた輪足山東福寺などが点在しています。



菊池城の城郭に沿って流れる井手

城を守った壕が加藤清正の手で井手に生まれ変わり、江戸期には大坂堂島市場の基準米として播州米や備州米と並んで重宝された菊池米(肥後米)を育みました。その流れは、国内トップクラスの食味を誇る水田を潤す水源として、今も変わらず菊池平野に恵みをもたらしています。